

岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 山田 和正

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

1 会の名称 学校評議委員会

2 会の構成 委 員 岩佐 洋二 株式会社 岡本 常務
大橋 仁壽 株式会社 大垣鐵工所 取締役社長
川島 裕美 地域住民代表
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長
南谷 清美 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学 校 側	山田 和正 校長	森 保 教務主任
	沢井 和弘 副校長	宮浦 英夫 生徒指導主事
	松原 行雄 事務部長	牧村 高憲 進路指導主事
	高瀬 仁士 教頭(全)	川井 正士 特別活動部長
	高橋 信行 教頭(全)	川嵐 俊夫 工業部長

3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成21年11月7日(土) 10:00~12:30 岐阜工業高等学校 校長室
委員4名と学校側7名が出席

5 会の概要

主テーマ 工業高校に期待するもの

文化祭の見学

各学科・クラス・文化系部活動の発表を見学し、育友会のバザーを楽しんでいただきました。各会場では、生徒の説明に熱心に耳を傾けられ、一部の体験コーナーでは作品を受け取っていただきました。



感想

毎年拝見しているが、若い人のエネルギーのすばらしさを感じている。モチベーションを持って、自主的に考えてやっているのも、たいしたものだと思います。こういうことにエネルギーをかけられるのは教育の力だと思います。

自分が高校を卒業して以来、始めて高校の文化祭を見ました。鉄道関係の技術も使っており、我々もいろいろと活かしていきたいと思いました。すばらしい文化祭でとても感心しました。

子どもたちが楽しそうに物を作ったり、それについて説明している姿を見て、とてもすばらしいと思いました。パイプオルガンでは金属管に拘らず、木管で作るなど、発想がすごいと思いました。見学に歩いていても皆挨拶をしてくれるので気持ちがよかったです。

学校に入ってから挨拶をしてくれて気持ちがよかったです。ものづくりの技術はすばらしいので、是非将来もこれを活かしてくれるといいなと思いました。

限られた予算で工夫して、これだけのことをやっているのですばらしいと思いました。会社で同じ事をやろうとするとすると人件費等を考えると1000万円以上かかると思われます。

学校の教育現状について 報告

教育実践 学校長より 第1回評議員会を受けての改善策、諸活動の報告

特別活動部 文化祭の取り組みについて

外部評価 副校長・教務主任より 全日制・定時制 集計結果と分析、今後の課題

工業高校に期待するもの

- ・十年先に会社がどうあるべきか問われるときがあるが、答えにくいものです。目的意識をはっきりしている会社は十年先の計画が立ち、伸びています。
- ・鬱の社員が増えました。鬱の人には励ますのも同情するのも良くない。とにかく一緒にやりましょうというのがいいようです。我々もとにかく一緒にやりましょうということだと思います。学校は健康第一でモチベーションが高ければ多くの問題が解決できます。
- ・名鉄笠松駅では特に痴漢等の届けはないが、スカートの丈が短い生徒も見受けられるので、とても心配している。何かあれば対応するので、相談して欲しいです。
- ・アンケートの結果で親が質問項目に対してわからないという回答が多いのは仕方がないと思います。学校から出される一片の紙では学校が何を考えているかまでは当然理解できないと考えられます。しかし、生徒が解らないという回答をするのは問題があると思います。学校の意志を毎日登校している生徒が理解していないということだと思います。
- ・政権が変わり、学校現場での買い換え等の予算がストップしているのではと推察します。会社もかつての25%しか仕事がない状況です。公表していないだけでリストラを計画していて、設備投資ができない会社は多いそうです。実際には不景気なときにはなかなか前向きな合理化や連携はできないものです。調子のいいときに合理化や連携を考える必要があると思います。